

学校名	丹波市立北小学校
-----	----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
学校教育目標 夢に向かって、一人ひとりが輝く北っ子 ～自分大好き、学校大好き、さちよ大好き～	○学校内外の安全・安心を推進します ○主体的活動を生かした授業や特別活動の充実を図ります ○地域とともにある学校づくりを推進します ○特別支援教育の充実を図ります

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	危機管理	コロナウィルス感染症拡大防止対策に向けた取組を実施し、安全な学校、安心できる学校にする。 本校の校区は広く、登下校において、交通安全や熱中症対策など、安全・安心な状況を生み出せるような方策を考え、子どもたちの安全対策を図る。	A	コロナウィルス感染症が拡大する中、突然の臨時休校となったが、児童の安全を考え、コロナ感染対策の徹底を図るとともに、児童の心のケアにも、配慮できる取組を行う。 熱中症対策として、学校の中でできること、予算の中でできること、地域の力を借りてできること、など選別し、それぞれの力で最善が尽くせるような取組を行い、児童の安全かつ安心できる学校づくりを行う。
	生徒指導	問題行動（いじめ・不登校等）の未然防止、早期発見、早期対応をする。 児童の気持ちに寄り添い、居場所がある学級づくりを大事にして、自尊感情や自己有用感が高まる取組を全職員で実施する。	B	昨年度、学校組織の体制づくりを進め、一定の成果を得た。今年度、体制を見直しながら、引き続き、不登校対応、特別支援対応など、教員が一人で抱え込まず、チームで子どもたちを見て援助するとともに関係機関との連携を図る。特に、問題が発生した時は、即対応し、情報共有する中で、解決策を検討し、解決に向けた取組を行う。
	地域住民との連携	「地域とともにある学校」を目指し、学校運営協議会を活性化させ、地域の人たちが学校に来やすい環境や地域の人とともに創る教育活動を実施する。	A	学校運営協議会発足２年目として、さらに、地域の教育資源を学校でも活用できるように図っていく。学び支援チーム、安心安全支援チーム、地域交流支援チームとそれぞれのチームが機能していけるように、運営協議会を充実させる。 児童の郷土愛がさらに深まるように感謝の会の実施や地域の声などを機会あるごとに伝えていく。
教育課程	指導方法の工夫改善	新学習指導要領の実施に伴い、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指すための授業方法の工夫改善を行う。	B	授業改善を図るために、校内授業研究を行い、事後研だけではなく事前研においても充実を図り、公開授業が一人ひとりの授業改善へとつながるようにする。 主体的な児童の育成に向け、児童会活動や特別活動の充実を図る。対話的な授業を行うことで、友達同士の人間関係が構築でき、良好な関係が保てるようにする。
課題教育	特別支援教育	どのクラスにも、特別な支援を要する児童が在籍していると捉え、分かりやすい授業や見通しが持てる声掛け、保護者との連携を大切にした学校づくりを全職員で行う。	A	特別な支援を必要としている児童だけでなく、すべての児童が分かりやすい授業や生活しやすい環境を作る。担任だけで抱えることなく、全職員で情報を共有し、一人ひとりのニーズに合った教育的支援を行う。 保護者とも、信頼関係が構築できるように、学校からの発信をていねいに行い、子どもたちが楽しんで学校に登校している様子を伝え、不安なことも気軽に相談ができる。関係機関とも連携を行う。

※領域（３領域） 学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道德教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
コロナ対策として、各教室に消毒液、夏も冬も窓を開けての換気など、普段の生活から対策をされている。熱中症対策のミストも良かった。音楽会の合唱用マスクや観光バスの送迎、運動場の整地など、地域の協力を得て実施できたことも良かった。登下校の安全については、子どもたちの安全意识も高く、地域との連携もできている。
いじめ対策については、アンケートなどしてもらっているが、相談ポストなどを設置して、子どもたちの声を普段から吸い上げ、早期発見につなげてはどうか。登下校中のトラブルもある。自分たちで解決しているようであるが、先生たちとの共有が大事である。
学校運営協議会を中心に、クラブ活動の講師、授業補助、地域探検など、地域とのつながりを大事に、地域の人をうまく活用している。このことにより、子どもたちの地域への意識も高くなっている。アートフェスタが、コロナにより中止となったことが残念である。
学力の定着を図るために、校内研修を通して授業改善を行っていることがよく分かった。子どもたち同士の話し合いもスムーズに進んでいる。とても良い光景が見られた。家庭読書などの取組があるが、読書をしている児童が減っていることは課題である。
特別支援学級の児童だけでなく、通常の学級でも、みんなが分かりやすいように環境を整えたり、個別のかかわりをしたりして、どの子も良い状況で生活できている。保護者との信頼関係も厚く、行事の様子を見ているも、学校が良くやっていることが分かった。
自己評価の実施方法についての評価
児童・保護者・教員によるアンケートの実施や学校行事における保護者アンケートなどから、適切に評価されている。
学校関係者評価のまとめ
学校運営協議会の中で、地域とともにある学校づくりに向けて、内容の検討や人材確保の協力が得られたことは大きい。その中でも、クラブ活動や授業講師などの取組は、評価できるものである。「地域の人に教えてもらおうと面白い」と答えている児童は約９０％いたことからよく分かる。 保護者の「通わせたい学校となっているか」という質問に９９％が肯定的な回答であった。今後も、地域とともにある学校として、子どもたちの育成に一緒に進めていけるようにしていきたい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

今年度、コロナ禍の中で、職員が力を合わせ一つのチームとなり最善を尽くして取り組んできたことが、地域や保護者の方々に伝わっていることが分かり、何よりも良かった。しかし、不登校傾向の児童対策やいじめの未然防止など、まだまだ、課題は残っている。今後も子どもたち自身の力をさまざまな場や機会に十分発揮できるように、教職員や保護者、地域の方々と協力して取り組んでいきたい。

来年度に向けて、まだ、コロナの影響は大きいと予想されるので、全職員のチーム力で学校運営を行っていき、一人ひとりが輝く教育の実践をしていく。地域とつながり、地域とともにある学校づくりを推進するために学校運営協議会の更なる充実も図っていきたい。

令和 ３ 年 ３ 月 ５ 日

学校名 丹波市立北小学校

校長名 黒 田 睦 美

